

台風一過、秋晴れの天気です。9月に2つの大きな台風が上陸するのは珍しい。災害の多い国ですが、この夏は色んなことがあります。ゲリラ豪雨で広島、岡山、愛媛では大きな被害があり、台風は19、20号に続き21号が近畿を直撃した。私の記憶では第2室戸台風以来の大きな台風で、風の強さは尋常ではありませんでした。各地で風の被害が多く報告されています。当地においても例外ではなく、大きな傷跡を残しています。9月末の24号の台風は21号ほどではなかった。台風21号のすぐ後に北海道胆振東部地震が発生した。北海道全域の大停電は生活の中での電気依存度が高くなっていることを証明した。被害に遭われた方にお見舞い申し上げます。また台風25号が来るとか・・・

財務省が9月3日に発表した《法人企業統計》によると、3月末時点の金融業と保険業を除く全産業の「内部留保」に当たる利益剰余金は、前年比9.9%増の446兆4844億円でした。調査開始以来、過去最高を更新しました。設備投資は5.8%増の45兆4475億円となりました。比較可能な01年度以降、最高を更新しています。売上高は6.1%増の1544兆1428億円、経常利益は11.4%増の83兆5543億円と売上も利益も伸びています。設備投資も増えましたが、内部留保の伸びの方が大きく、さらなる設備投資や賃上げを求める声が強まりそうです。海外で稼いで本国のキャッシュが積みあがっています。今年、利益が出たからといって、来年はどうなるかわからないのですから喜んで全部使ってしまうと良い訳がありません。アメリカの好景気に刺激され、株高の状況が続いていますが、朝鮮半島の非核化やイランの中東問題等々があり、又、経済リスクで考えると、TPPや日米、米中貿易問題もあり、現在は良い景気であったとしても、景気は循環しますから次の段階では必ず不景気がやってきます。好況、後退、不況、回復、という4つの局面で循環していきます。好況時に出た利益は後退期、不況期を乗り切る原資であり、回復期の原動力です。ドラッカーは「利益は存在しない。存在するのはコストだけ」といっていますように、今ある利益を今のコストとして使ってしまうと、利益がなくなったときのコストが賄えなくなってしまう。多くの企業が、今ある好況がこれからも続くとは思っていない。だからこそ、内部留保として溜め込んでお金を残しているのです。企業としては当然の行動だと思います。されど、これだけ溜め込んでいるのならば、バブルの再現とは言いませんが、従業員や下請けや関係者に大盤振る舞いをしてみてもと云いたくなるのですが・・・

消費税率の増税まで、1年を切りました。何もなければ法令通りに実施され、税率は10%、食料品等は8%と複数税率導入となります。税理士会は強力に反対の申入れをしていますが、凍結までは大変なのでご協力をお願いします。